

## 令和3年度湯沢市地方創生推進会議 議事録

日 時	令和3年8月3日(水) 10:00~11:58	場 所	会議室 23・24
出席委員	石沢委員(会長)、飯塚委員(副会長)、菅原委員、眞木委員、目黒委員(新)、佐藤委員(新)、齊藤委員(新)、夏井委員、佐貫委員、齊藤委員、古関委員(新)、高橋委員、飯田アドバイザー(オンライン)		
欠席委員	小野寺委員		
事務局	協働事業推進課		
案 件	① 第2期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について ② その他		
			
概 要	<p>◆ 委嘱状交付(委員の異動)</p> <p>国交省湯沢河川国道事務所長 目黒委員          湯沢公共職業安定所長 佐藤委員          雄勝地域振興局地域企画課長 齊藤委員          湯沢青年会議所理事長 古関委員</p> <p>◆ 市長あいさつ</p> <p>◆ 自己紹介</p> <p>◆ 案件(1) 第2期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について          ※ 協働事業推進課から戦略概要、令和3年度進捗状況を説明</p> <p>以下、委員からの発言要旨。</p> <p>・ 以前から職場間の若者の出会いの場を創出しようとしているがなかなか難しい面もある。労働条件の改善、賃金の向上など経営者にも考えてもらい、良い労働条件によりこの地に住みたいと思えるように事業を行っている。</p>		

- ・横浜リビングラボとの交流に参加したことがあるが、地方に移住したい方は結構いると聞く、お試しやワーケーションも良いPRになると思う。若い人は移住後の仕事を考えると思うが、企業や会社では人が欲しいところも多く働き口はあるはず、うまくマッチングすることができれば可能性はある
- ・キャリアコンサルティングしている中でいろいろな相談を受ける。出産や育児に関する悩みも自分だけで背負ってしまう、若い方でせっかく地元に戻ってきたが目的が見つけれない、親の介護で戻ってきたが年齢もあり非正規雇用で将来が不安、悩みのある方が多い、心のサポートも大事
- ・高校生の県内就職について、率は過去最高となっている、来春卒業予定者の進路状況も過去最高だが、高校生自体少なくなっているので実人数は減っている。コロナ禍もあり、家族は地元を勧めているのもあるのでは
- ・学校の先生が企業をあまり知らない、先生と企業とを結ぶ取り組みを実施した。先生や親に企業からPRするのも効果的ではないか。職種・職業はすごく多くあるので、親や先生にもっと知ってもらえればと考えている。
- ・高校生企業説明会も企業の応募枠 30 社に対し 35 社の応募あり、企業側もモニターを使って見やすい説明や椅子に社名カバーをかけるなど工夫している。
- ・人口減少と女性活躍推進の課題はリンクしていると思う、社会構造を変えていかないと難しいと思う、女性の活躍や仕事という概念が変わっていかないと
- ・出生率は婚姻率と連動していると思う、独身の社員が多い、個人の婚活はある程度やる気のある人がやっている、以前職場間で出会いの場をセッティングしたこともあると聞いているが、行政主導でもいいのでそういった事業があれば、行って来いと企業でも後押しできる。市の婚姻率はどれくらいか  
市⇒県婚姻率 H30 で 3.1 に対し湯沢は 2.5、その後も下がっている、令和元年は令和婚で少し上がったが、全国的にも下がっている。市としても仕事と家庭の両立について企業と一緒に進めていきたい。例えば合同入社式後に同期で仲良くなる機会を作る等を考えている
- ・生活をどう立てていくのかというところで雇用の充実が求められる、雇用側も企業経営というところで雇用の確保が大事になる、関連して何か意見はないか
- ・企業を回ってみると人不足は聞く、地元採用者も普段何をしているのか、相談できる友達も県外へ出て行ってしまったという状況が多いようで若い人が交流す

る場が欲しいとの声も、企業も若い人に会社へ定着してもらいたいので、いきなり婚活へ行ってみてはでなく、若いうちからそういった交流する場への参加を後押しできればいいのではないか。移住支援助成についても首都圏からのみが対象なのでUターンには条件付けず助成してもいいのではと思う。

- ・若者の企業への定着について、今の若い方は企業の待遇が良くないとすぐ待遇の良いところへ移っていく、企業としてもその人だけ待遇良くするわけにもいかないので難しいところである。先ほどのワーケーションによる課題解決の話がありましたが「なぜ湯沢市に来ないのか」なぜなぜで課題を考えていく必要がある。
- ・仕事について以前はやりがい求めた、現在では仕事はまじめだが辞めることに躊躇しない、悩みなど相談する同期も少ない現状、ミスマッチを感じたら辞めるとならないよう相談を受ける体制が必要、話をすれば何か見つかるかもしれない
- ・移住者で農業やりたい人が多いが実際定着はむずかしい、テレビで紹介しているようにはいかない、兼業で半農生活を体験してもらうのがいいと思っている、天候に左右される農業のみで生活を支えるでなく兼業でカバーしてが理想的か。農家は早朝労務など時間や忙しい時期が集中することもあり求人も難しい
- ・グリーンツーリズムで農家体験ツアーを企画し農家の方に周知してみたが、片手間になるなど対応してくれる農家はまだ少ないと感じている、ワーケーションなどで他市町村のいろいろな事例があると思うので、次回以降に機会があれば紹介していただければありがたい
- ・建設業でも同様の悩みを持っていると聞く、業種は違うがすべて関連している。各方面から出た課題は指標には表れにくく、計画の KPI につなげるのは難しいかもしれないが、この場での意見交換や課題を出し合いマッチングすることで解決につながるかも、課題事項を見えるようにしておき次の議論につなげていければこの会議もより有意義なものになると思う。

◆ 案件(2) その他 事務局からの連絡は無し、委員からも特に無し

11 : 58 散会